

コーヒー業界の財務分析

2023年7月19日（水）

財務診断研究会

中小企業診断士 早津 久美子

目次

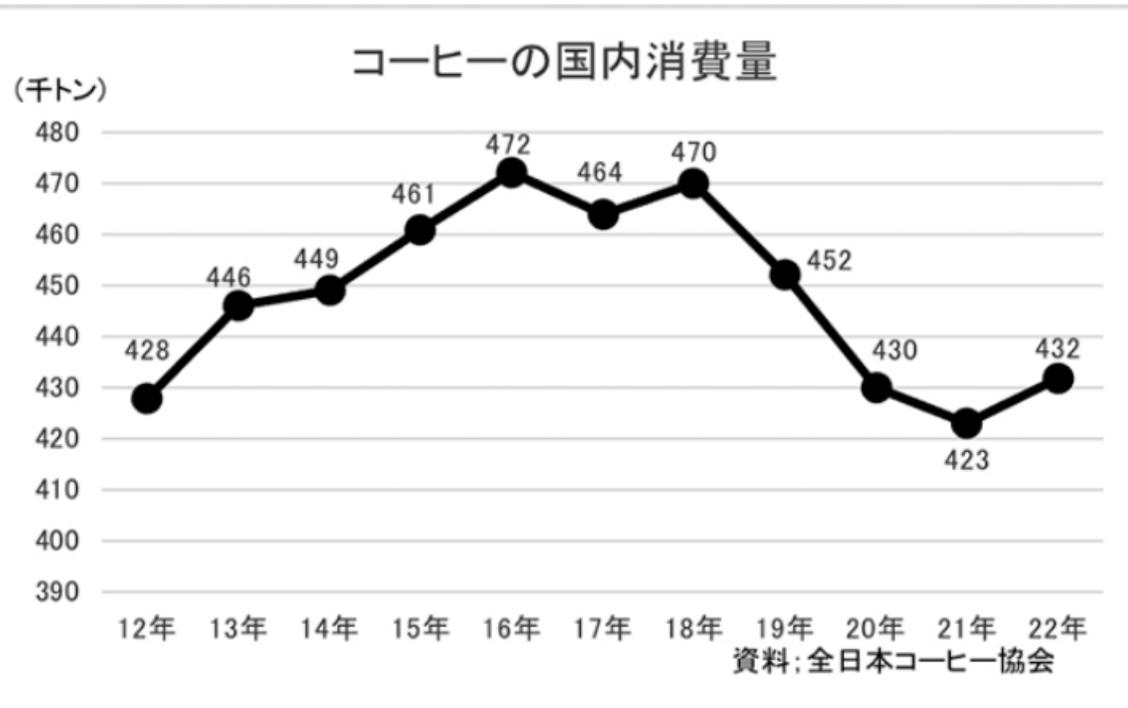
1. 日本標準産業分類
2. コーヒー業界の現状
3. コーヒー業界の課題
4. コーヒー業界の今後のトレンド
5. 事例企業の概要（3社）
 - ①キーコーヒー（株）
 - ②（株）ユニカフェ
 - ③（株）コメダホールディングス
6. 個人ワーク

1. 日本標準産業分類

大分類	E	製造業
中分類	1 0	飲料・たばこ・飼料製造業
小分類	1 0 3	茶・コーヒー製造業（清涼飲料を除く）
細分類		1 0 3 2：コーヒー製造業
大分類	I	卸売業、小売業
中分類	5 2	飲食料品卸売事業
小分類	5 2 2	食料・飲食料卸売事業
細分類	5 2 2 6	茶類卸売業

2. コーヒー業界の現状①

コーヒーの国内消費量が4年ぶり増加、人流回復による外食での需要増で



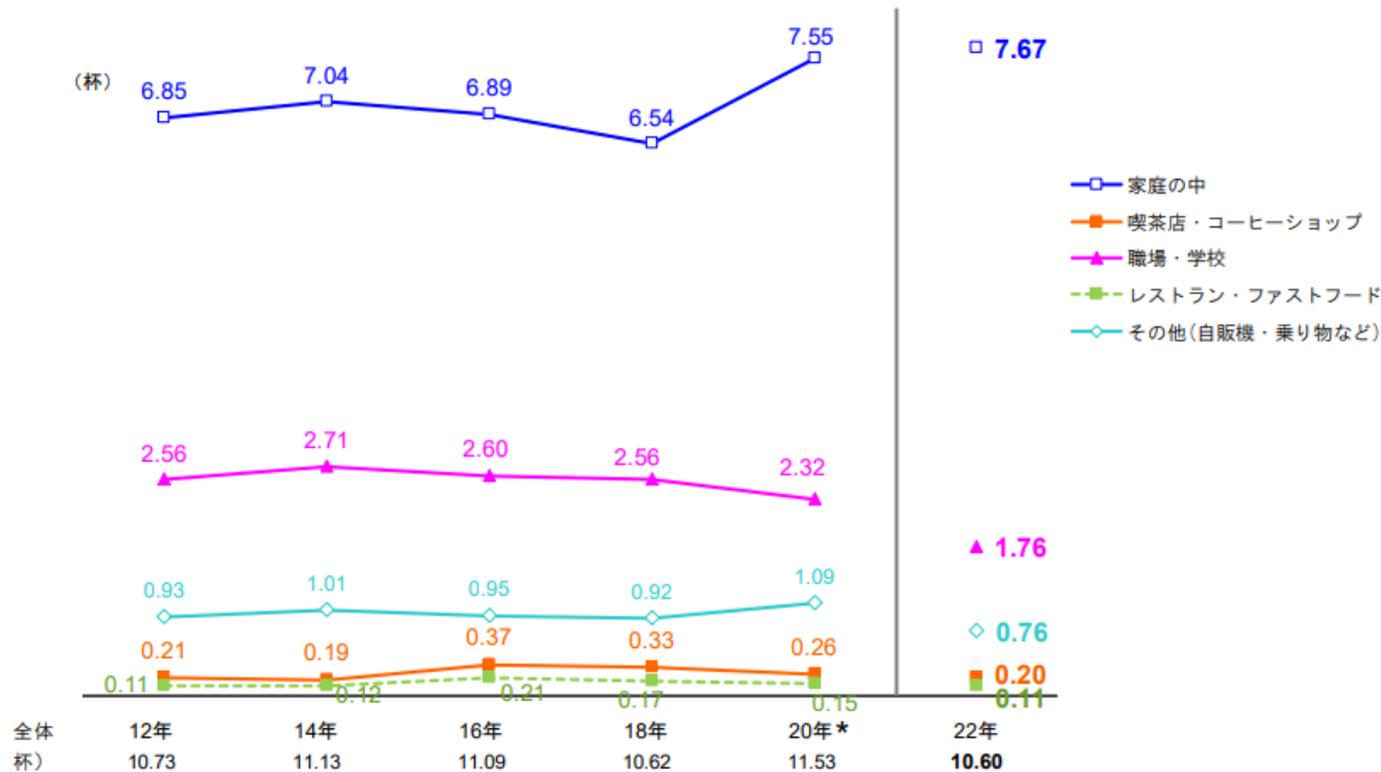
コーヒーの国内消費量

2020年の新型コロナウイルスの影響により、外出機会が減ったことでカフェ等の利用が減り、需要が減少したが、2022年度以降、徐々に回復傾向にある。

引用；食品産業新聞社記事より抜粋

2. コーヒー業界の現状②

◎ 1週間当たりの平均飲用杯数(場所別)



- ・ 1週間当たりのコーヒーの平均飲用杯数は22年度では10.6杯。
- ・ 家庭の中で飲む機会が一番多い(22年度では72%程度)。

注1) 20年は郵送調査法で実施。22年はWEB調査実施しているため時系列でみることはできない。

注2) 飲用場所不明のケースがあるため、場所別の合計と全体の数値は必ずしも合致しない。

引用：全日本コーヒー協会統計資料より

2. コーヒー業界の現状③



- ・喫茶店市場の市場規模は安定傾向。ここ20年は1.04～1.28兆円で横ばいで推移。

- ・一方コンビニコーヒーの台頭等で競争相手が多様化している。

引用：厚生労働省「今日から実践！収益力の向上に向けた取り組みのヒント 喫茶店営業編」より抜粋

2. コーヒー業界の現状④

チェーン店別 店舗数ランキング

順位	チェーン名	2022年1月	2023年1月	増減率 (%)
1位	Starbucks Coffee	1,696	1,784	+5.2
2位	ドトールコーヒーショップ	1,069	1,046	-2.2
3位	珈琲所 コメダ珈琲店	911	924	+1.4
4位	タリーズコーヒー	753	757	+0.5
5位	快活CLUB	511	502	-1.8
6位	サンマルクカフェ	360	333	-7.5
7位	皇乃珈琲店	285	287	+0.7
8位	珈琲館	213	208	-2.3
9位	CAFE de CRIE	182	182	0
10位	PRONTO	188	179	-4.8

- カフェチェーン店ではスターバックスコーヒーが大きな割合を占める。
- 第3位のコメダ珈琲店は第2位のドトールコーヒーに迫る勢い。

引用：日本ソフト販売(株)ブログより抜粋

3. コーヒー業界の課題

■現状のコーヒー業界が抱える課題

- ・ 気候変動 ・ 世界情勢 ・ 天災
- ・ 為替変動
- ・ コスト上昇（人件費、エネルギー、物流等）他
- ・ 2050年問題

地球温暖化による気候変動の影響により、2050年にはアラビカ種の栽培地が現在の50%減となることが懸念されている。

世界の人口の増加に伴うコーヒー需要の増加によって2050年にはコーヒーの供給量が大幅に減少する見込み。

4. コーヒー業界の今後のトレンド①

■アメリカのコーヒーブームの変遷

1. ファーストウェーブ(1800年代～1970年代)

インスタントコーヒー等の普及により、庶民に急速に広まった。
大量生産大量消費が特徴で味の追求はなし（浅煎りコーヒー）。

2. セカンドウェーブ(1970年代～1990年代)

品質にこだわり、味の追求がなされた時代（深煎りコーヒー）。
スターバックス等のシアトル系コーヒーが有名。サードプレイス。

3. サードウェーブ(1990年～現在)

一杯ずつ丁寧なハンドドリップで丁寧に淹れるスタイル。
コーヒーを飲む「体験」を重視。
ブルーボトル・カンパニーが有名。
日本ではもともと純喫茶で行われていたスタイル。

4. フォースウェーブ？（現在進行形）

自宅でじっくり丁寧に淹れて味わうコーヒースタイル。

4. コーヒー業界の今後のトレンド②

■ コーヒー業界の今後のトレンド

キーワード「**多様性**」「**見える化**」

- ・ だれが作ったコーヒーか。
- ・ どこで作られたコーヒーか。
- ・ どのようにして作られたコーヒーか。
- ・ 値段は適正か。
- ・ 味や品質等

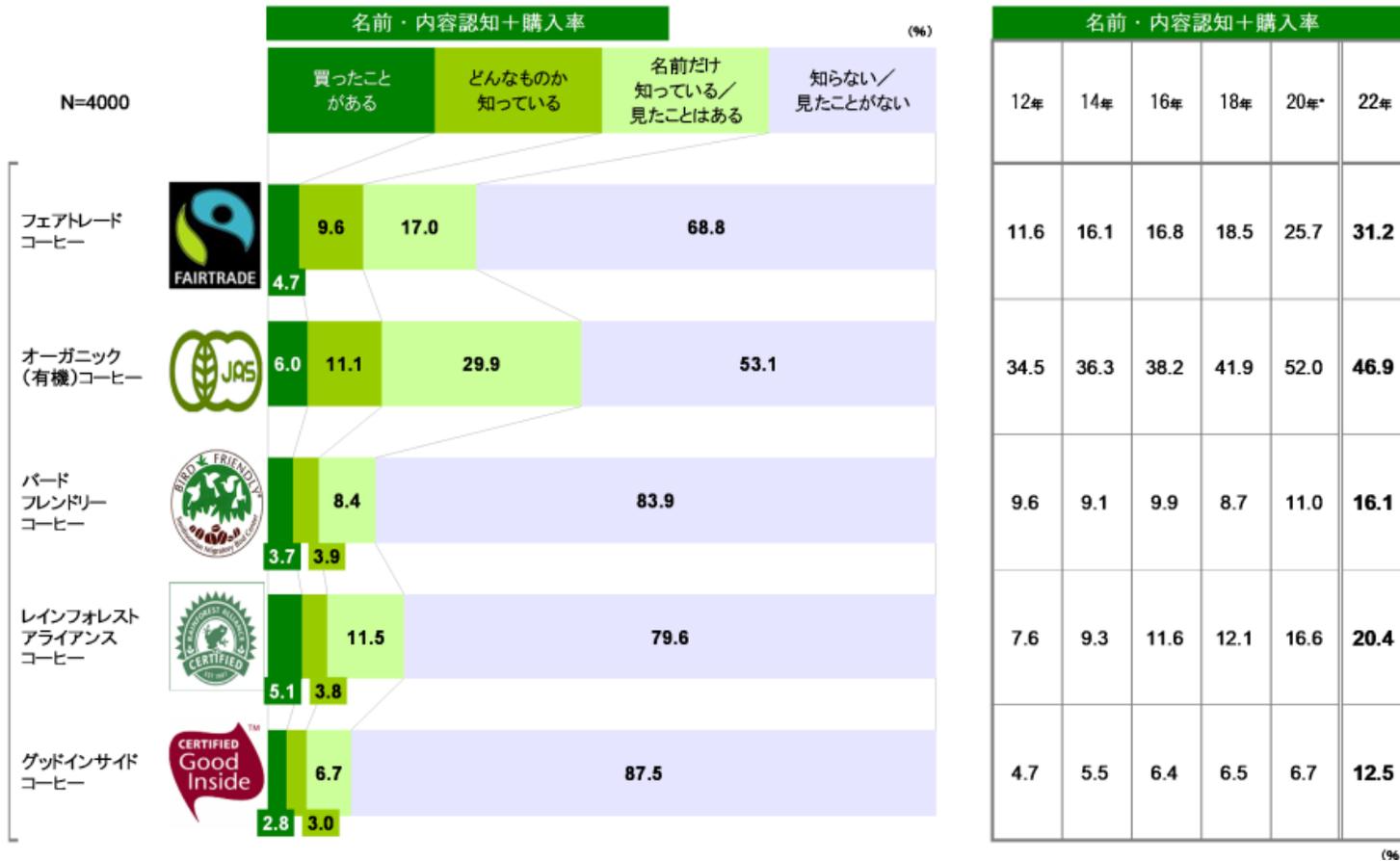
その他

- ・ サステイナブルコーヒー
- ・ ノンカフェインコーヒー
- ・ スペシャルティコーヒー
- ・ ご当地コーヒー等

4. コーヒー業界の今後のトレンド③

◎ 認証コーヒーの認知

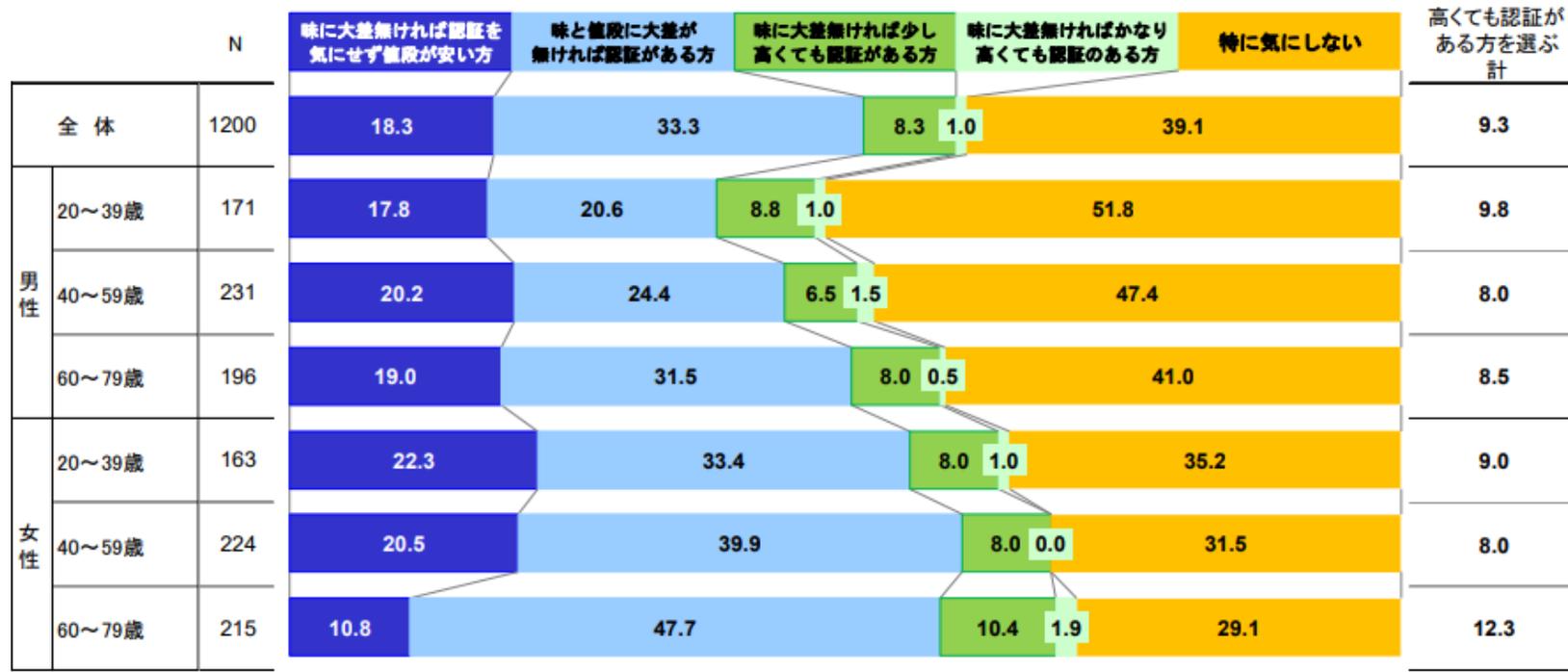
・日本における認証コーヒーの認知度はまだまだ低いですが、少しずつ認知度が高まっている。



引用：全日本コーヒー協会統計資料より

4. コーヒー業界の今後のトレンド④

◎ 認証コーヒーの購入に対する態度



世代や性別によって差はあるものの、「味と値段に大差が無ければ認証がある方」「味に大差がなければ少し高くても認証がある方」を含めると30%~60%の割合になる。

引用：全日本コーヒー協会統計資料より

5. 事例企業の概要 (3社)

会社名	キーコーヒー(株)	(株)ユニカフェ	(株)コマダホールディングス
本社所在地	東京都港区西新橋	東京都港区赤坂	愛知県名古屋市
設立	1952(昭和27)年10月 (創業 1920(大正9)年8月)	1972年(昭和47)年11月	2014(平成26)年11月 (創業1968(昭和43)年1月)
資本金	4,628百万円	2,514百万円	651百万円
上場市場名	東京証券取引所 プライム 市場	東京証券取引所 スタン ダード市場	東京証券取引所 プライム 市場 名古屋証券取引所 プレミ ア市場
主要株主 (上位3位)	<ul style="list-style-type: none"> ・博友興産(有)10.47% ・日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口) 8.72% ・キーコーヒー取引先持株会 2.82% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーシーシーホールディングス(株) 52.44% ・三菱商事(株) 9.86% ・日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口) 2.94% 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口) 13.36% ・(株)日本カスタディ銀行 9.04% ・(株)かんぽ生命保険 1.76%

5. 事例企業の概要①

■キーコーヒー株式会社

【企業理念・行動規範】

「コーヒーを究めよう。

お客様を見つめよう。

そして、心にゆたかさをもたらすコーヒー文化を築いていこう。

【事業内容】

海外におけるコーヒー農園事業から、コーヒーの製造、販売ならびにコーヒー関連事業経営に至るまでのコーヒーに関する総合企業。

5. 事例企業の概要①

■キーコーヒー株式会社

【主要取扱商品】

- ・レギュラーコーヒー
(業務用、家庭用、原料用、オフィス・自動販売機用)
- ・コーヒーギフト及びコーヒー加工品
- ・コーヒー飲料及びコーヒー関連商品
- ・キーブランド飲料、食品
(フルーツジュース、フルーツシロップ、コーヒーシュガー他)
- ・他社ブランド飲料、食品
- ・コーヒー関連器具(コーヒードリッパー、コーヒーフィルター他)

5. 事例企業の概要①

■キーコーヒー株式会社

【連結子会社】

- ・株式会社イタリアントマト
- ・株式会社アマンド
- ・ニック食品株式会社
- ・キーアソシエイツ株式会社
- ・キーコーヒーコミュニケーションズ株式会社
- ・株式会社キョーエイコーポレーション
- ・スラウェシ興産株式会社
- ・PT.TOARCO JAYA
- ・honu加藤珈琲店株式会社
- ・有限会社オーギュスト
- ・台湾キーコーヒー株式会社

【関連会社で持分法適用会社】

- ・株式会社アイラ沖縄
- ・株式会社銀座ルノアール

5. 事例企業の概要②

■株式会社ユニカフェ

【企業理念】

「コーヒーをコアに人と環境にやさしい企業を目指す」

【関係会社の状況】

親会社：ユーシーシーホールディングス株式会社

(資本金:100百万円、議決権の被所有割合52.8%)

連結子会社：株式会社アートコーヒー

(資本金：450百万円、議決権の所有割合100%)

5. 事例企業の概要②

■株式会社ユニカフェ

【事業内容】

- ・株式会社ユニカフェ：
 1. レギュラーコーヒー及びコーヒー加工品の製造販売
 2. 食品・食材及び飲料等の仕入販売
- ・株式会社アートコーヒー：
 1. コーヒーの焙煎・加工及び販売
 2. 食料品・飲料品の製造販売及び輸出入
 3. 飲食店施設の建設企画及び運営に関するコンサルタント業務

5. 事例企業の概要③

■株式会社コマダホールディングス

【経営理念】

「私たちは“珈琲を大切に作る心から”を通してお客様に
“くつろぐ、いちばんいいところ”を提供します。」

【事業内容】

コマダ珈琲店チェーン等を運営する株式会社コマダの経営管理を行う持株会社。株式会社コマダホールディングスの他、連結子会社4社で構成されており、連結子会社の株式会社コマダにて「珈琲所コマダ珈琲店」(968店舗)、コマダの和喫茶「おかげ庵」(13店舗)、「BAKERY ADEMOK」(3店舗)、「KOMEDA is 口」(1店舗)、テイクアウト専門店のコマダの大判焼き「大餡吉日」(1店舗)の5つのブランドで事業展開を行っている(2023年2月現在)。

5. 事例企業の概要③

■株式会社コメダホールディングス

- ・ コメダ珈琲店の“くつろぐ、いちばんいいところ”であり続けるための4つのこだわり
 - ① コーヒーへのこだわり
(看板商品であるコーヒーの毎日ブレのない「いつも同じおいしさ」を提供)
 - ② おいしさへのこだわり
(メニューの充実、食品の安全管理等)
 - ③ おもてなしへのこだわり
(一人ひとりの“くつろぎ”に寄り添った心からのおもてなし。)
 - ④ 居心地へのこだわり
(誰もがくつろげる「リビングルーム」としての空間を演出。)

6. 個人ワーク

財務諸表から読み取れる強みや経営課題を分析しましょう。

	着目した経営指標	強みや経営課題
1		
2		
3		
その他気づいたこと等		